

全中学校区で「小中一貫教育」を推進しています



保育園児・幼稚園児・小学校児童の交流会



ブロック協議会理事と保幼小中教職員による合同意見交換会の様子



中学校文化祭での小中合同調理活動



小中合同人権集会のあとの分散会の様子



小・中全校児童生徒による出会いの会(6月23日・湖陵小学校)



小中一貫教育とは

「小中一貫教育」とは、子どもたちの健やかな成長をめざし、小中学校の教育課程を連続的に編成し、義務教育9年間の教育活動を計画的に進める教育のことです。

出雲市では、平成18年度から7つのモデル校区による実践を基盤にして、平成20年4月から13すべての中学校区で、保育所や幼稚園との連携を含めた「小中一貫教育」を推進しています。

なぜ「小中一貫教育」が必要なのか
 ▼「中1ギャップ」の現象が顕在化

小学校から中学校へ進学した際に、学力の急激な低下、不登校生徒の増加、問題行

動の芽生え、急激な環境変化による戸惑いや不安の増大、中学生活への挫折・劣等感の増幅など、さまざまな問題が全国的に見られます。

▼子どもたち一人一人への適切な対応

家庭の価値観の多様化による子どもたちへの対応、社会の変化に伴う身体の早熟化・思春期の早期化が進み、従来の発達段階に対応した小学校6年・中学校3年の枠組みだけでは対応できないという新たな教育課題も明らかとなっています。

こんな取り組みをしています

出雲市では、「自信を持ってたくましく生き抜く児童生徒の育成」、「目標実現のため」に努力する児童生徒の育

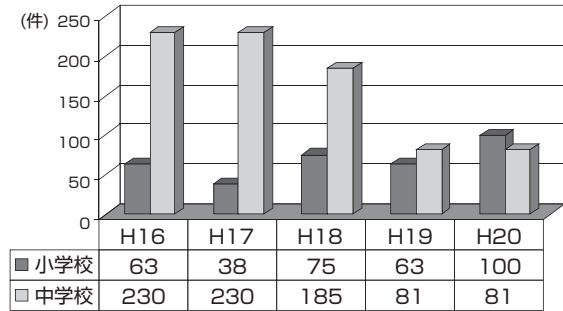
成、「児童生徒の学力の向上と教職員の授業力の向上」を目標に、「学習指導(学力向上)」「交流活動」「生活指導」の3つの柱で進めています。

今後は「タテの一貫、ヨコの連携」へ

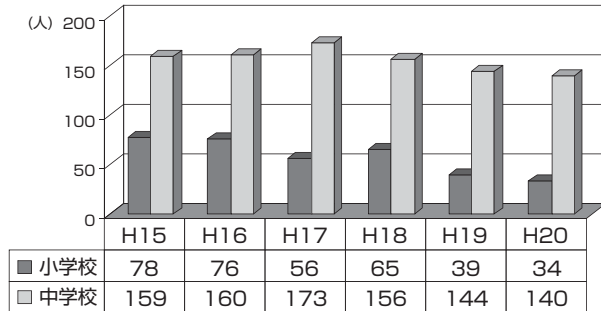
市では、「連携教育」への取り組みにより、小中学校教職員の「教育観」・「指導観」の共有化を図っています。今後は、カリキュラムによる「一貫教育(タテの一貫)」に移行する予定です。そして、地域学校運営協議会や地域学校運営ブロック協議会をはじめとした地域内のさまざまな組織を活用した子育てとうまく連動(ヨコの連携)させて、「ふるさとを愛し、夢を描いて未来を創るたくましい出雲の子」を育てていきます。

こんな成果がみられます

問題行動発生件数の推移

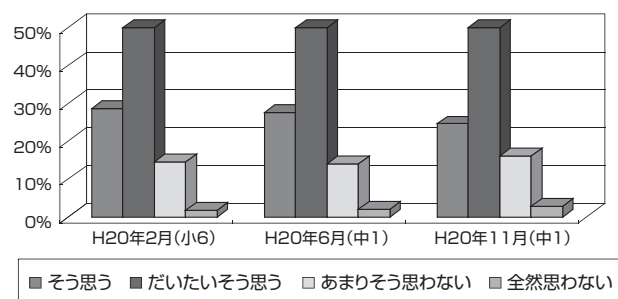


不登校児童生徒数の推移

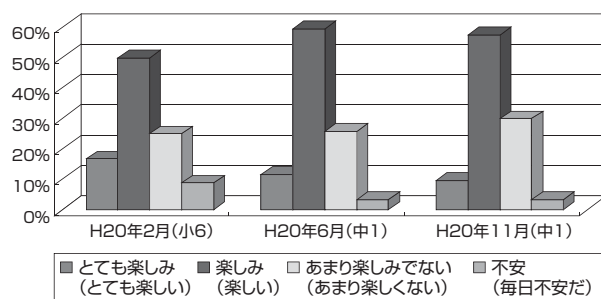


(小学6年2月、中学1年6月・11月の追跡アンケート)

自分がんばればいろいろなことができると思いますか



中学校生活(勉強)についての今の気持ち



アンケート調査結果から、中学校入学前の不安感や戸惑いが、中学校入学後にも増大していない、むしろ軽減していることが分かります。また、中1ギャップの象徴的数値として取り上げられる問題行動発生件数は、大きく減少しており、不登校児童生徒数も減少傾向にあります。

おたすね
 学校教育課
 ☎(21)6196